

"bread, butter,  
and  
champagne"

little bear films  
and nan bush  
present

a film by  
**bruce weber**

director of photography  
jeff preiss

music by  
chet baker

executive producer  
nan bush

editor  
angelo corrao

with  
cherry vanilla  
lisa marie  
olga triana  
andy minsker  
and  
flea

# let's get lost

starring

# chet baker

Little Bear Films  
and Nam Bush  
present  
a film by  
Bruce Weber

'89年アカデミー賞長編ドキュメンタリー部門ノミネート作品

チェット・ベイカー  
レッツ・ゲット・ロスト  
ブルース・ウェーバー監督/製作

1988年アメリカ映画

119分 ●モノクロ

製作/監督 ●ブルース・ウェーバー

撮影 ●ジェフ・ブレイス

編集 ●アンジェロ・コロオ

サウンドトラック ●BMGビクター

提供 ●株FCI

配給 ●KUZUIエンタープライズ

☎03-464-5643

【チェット・ベイカーの思い出】

私が初めてチェット・ベイカーの音楽をレコードで聞いたのは、1950年代私自身がジャズを始めただけの頃であった。私はすぐに彼の暖かさ、リズム、そしてデリケートなメロディ・センスにショックを受けた。

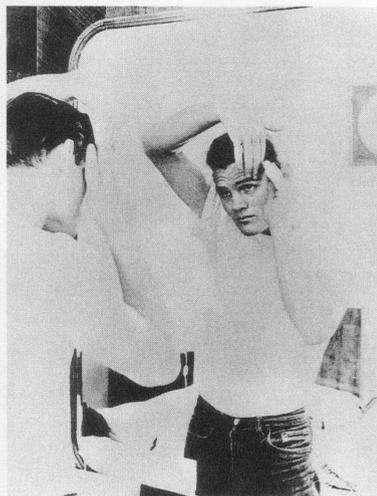
彼のスタイルはいわゆるクール・スクールと考えられていた。それは、マイルス・デビスと位置を同じくするもので、実際その頃チェットは、マイルス・デビスの玉座にとっては大いなる脅威とされていた。

あの頃私は、イースト・コースト・ジャズに親近感を覚えていた。イースト・コーストの音楽は腹わたをえぐるようでエネルギッシュ、そのリズムの配置においてウエスト・コーストよりも、よりブラックであった。そして、チェット・ベイカーがそのクールなカリフォルニア・スタイルで軽いスウィング・リズムを演奏していたにもかかわらず、彼はイースト・コーストから放射される大きなパワーに匹敵する微妙な強さのある演奏をできる一握りのウエスト・コースト・ミュージシャン

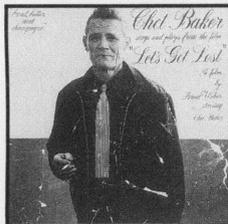
の一人だった。彼が選んだ音符は信じられない程の深みを持ち、それが私を捕らえて離さなかった。

しかし、チェットは演奏をただでなく、歌も歌えた。彼は少ないがボーカル・レコードも作り、最もおもいでに残っているのは“Chet Baker Sings”である。彼は、スムーズでスモーキーな声で何曲かのロマンティックなバラードを歌っていた。多くの人が自分達の恋愛でチェットが重要な役割を演じてくれたと認めるだろう。

私が映画「ラウンド・ミッドナイト」の仕事をしていた時、初めてチェットと一緒に演奏するチャンスを得た。チェットは1曲歌と演奏を頼まれていた。そのボーカルはまさしく我々が必要としていたものであり、彼のトランペット・ソロは輝くばかりであった。私はチェットが楽譜を読まない事を忘れてしまった。そのファースト・テイクの新鮮だったこと！チェットはコードに見事について行き、まるでそれを生まれながらに知り尽くしているようだった。音符がコードを軸にくるくると回転していた。彼の直感には傷ひとつなく、彼の音楽の選択は完璧だった。その時、初めて私は、



Let's Get Lost • starring Chet Baker



オリジナル  
サウンドトラック  
チェット・  
CHET BAKER  
ベイカー  
©R32J-1088 ¥3,008(税込)  
NOVUS  
BMG VICTOR INC.

個人的にチェット・ベイカーの偉大さを悟った。私は忘れない。見事に選ばれたその音符からほとばしる彼の心と、彼の演奏に耳を傾ける時、私の奥深くで感じた温もりを……。何故、それが最後の共演となってしまったのか？

彼のキャリアを振り返り、私は確信する。チェット・ベイカーはジャズの歴史にかけがえのない地位を築き上げた……。ハービー・ハンコック

【理由なき反逆児】

もし、これがハリウッド製のジャズマン映画であったならば、それはでっぴあげのチェット・ベイカーとなっていただろう。理由なき反逆児、すまじきトランベッター……チェット・ベイカーは、1950年代、60年代のジャズ界のスモーキーな夜に明りをともした超自然的な才能を持つトランベッターであり、その私生活は完璧なままに修羅場であった。

ブルース・ウェーバーは、これをエキソチックな白黒で撮影しており、それが、ベイカーを描く唯一の方法であった。それは月並みであるが、真実

に他ならない。ジャズの人生は、テクニカラーの人生ではない。ウェーバーは、それを知り尽くし、そして、カラーの有利さに対して、白黒をどう使えばいいか知り尽くし、才能溢れるカメラマン、ジェフ・ブレイスと共に、これを作り上げている。そして、この映画においては、カラーが発明されていないかまたは、まったく必要でないかのように思えてくるのである。

よく言われる事だが、映画に関して、書かれてはいないが、ひとつの鉄則がある……写真特にファッション出身の人間は、それが、モデルであろうとカメラマンであろうと、映画の深みを持っていない。しかし、ウェーバーは、まさしく例外である。彼は、映画作家であり、この動く肖像は、命を持っている。

マイアミ・ヘラルド紙、FEB・3、1989

By ビル・コスフォード

Dedicated To Chet Baker

12/23 (土)より独占ロードショー!  
●12/31、1/1は休映  
特別鑑賞券 ¥1,300 (当日一般 ¥1,600/学生 ¥1,400)  
ペア券 ¥2,400 (ポスター付、チケットびあのみ)  
ポスターの受け渡しは、フランタン銀座(B2)、渋谷109(2F)の2店のみ!  
劇場窓口、都内プレイガイド、チケットびあ、チケットセゾンにて好評発売中!

PARCO  
SPACE PART 3  
渋谷パルコパート3・8F TEL 03(477)5858  
曜日 1:40 4:00 6:20 8:40